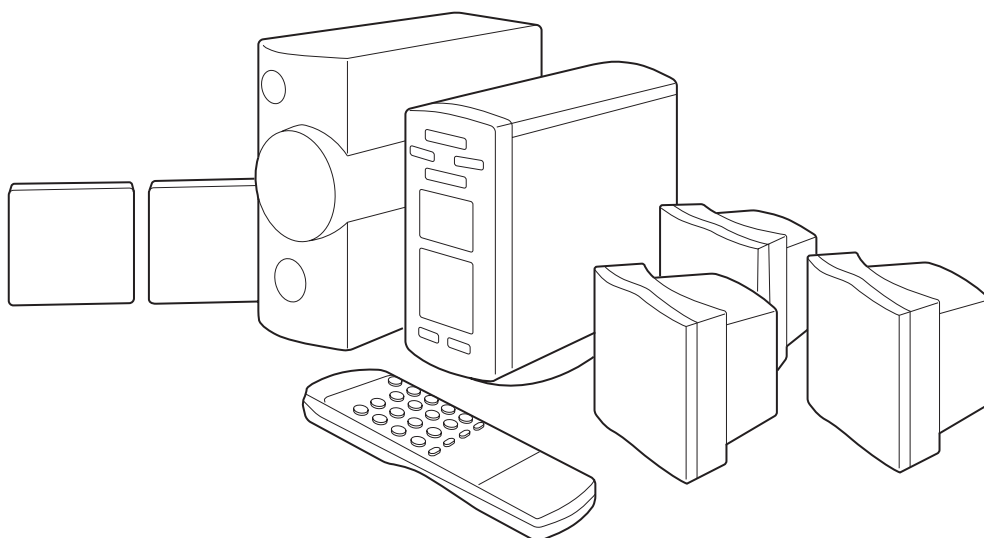
9A09298700

TEAC

取扱説明書

PL-S6D

プライベートシネマシステム

お買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに保証書と一緒に大切に保管してください。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

 警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。

 注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

一般的な注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

行為を指示する記号

電源プラグをコンセントから抜け

一般的な強制

警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。

万一、異常が起きたら

煙が出たり、変なにおいや音がするときは。
機器の内部に異物や水などが入ったときは。
この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。

すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店、当社修理センターまたはサービスセンターに修理をご依頼ください。

警告　以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。

電源コードを傷つけない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。
電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。
コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店、当社修理センターまたはサービスセンターに交換をご依頼ください。

電源プラグにほこりをためない。
電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。

交流100ボルト以外の電圧で使用しない。
この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。

通風孔に異物を入れない。
内部に金属類や燃えやすいものなど異物が入ると、火災・感電の原因となります。

機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない。
内部に水が入ると火災・感電の原因となります。

通風孔をふさがない。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

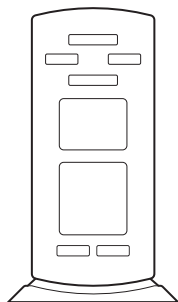
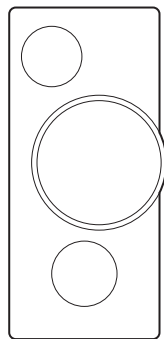
この機器のカバーは絶対に外さない。
カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店、当社修理センターまたはサービスセンターにご依頼ください。

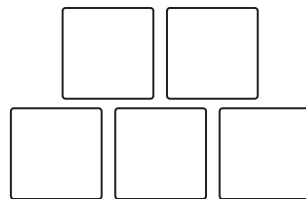
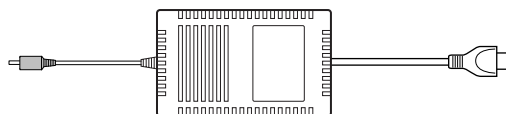
この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。
ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。
内部に熱がこもり、火災の原因となります。

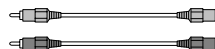
安全にお使いいただくために

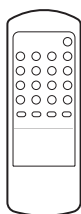
注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。
	オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。 **また、接続は指定のコードを使用する。**
	電源を入れる前には音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。 **湿気やほこりの多い場所に置かない。** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源コードを熱器具に近付けない。 コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。 コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す。 コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電の原因となることがあります。

中身の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店、当社修理センター、
または最寄りのサービスセンターにご連絡ください。

スピーカー(防磁型)×5個

本体(デコーダー/アンプ)×1個　　サブウーハー×1個

ACアダプター×1個

接続用ケーブル
(ステレオミニプラグ)×1本

サラウンドスピーカー用
延長ケーブル(RCA)・3m×2本

光デジタルケーブル(TOS)×1本
光ミニプラグ用アダプター×1個

リモコン×1個

リモコン用乾電池
(単4)×2本

取扱説明書
（本書）

保証書

使用上の注意

● デコーダーの上には物を置かないでください。上に布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上に置かないでください。本機の通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
● 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。
● 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムのそばの安定した場所に設置してください。
● 短時間に電源のオン/オフをくり返さないでください。故障の原因となります。

本機は*ドルビーデジタルデコーダーおよび**DTSデコーダーを搭載しています。

* : ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、プロロジック及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

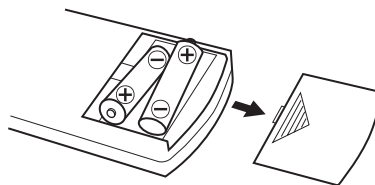
**: Digital Theater Systems,Inc.からの実施権に基づき製造されています。DTSは米国Digital Theater Systems,Inc.の登録商標です。

リモコンの使用方法

使用上の注意

● 本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から5メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。
● リモコンの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。
● 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

リモコン裏面のフタを外し、ケースの⊕と⊖表示に合わせて乾電池(単4形)2本を入れてください。

電池の交換時期は…

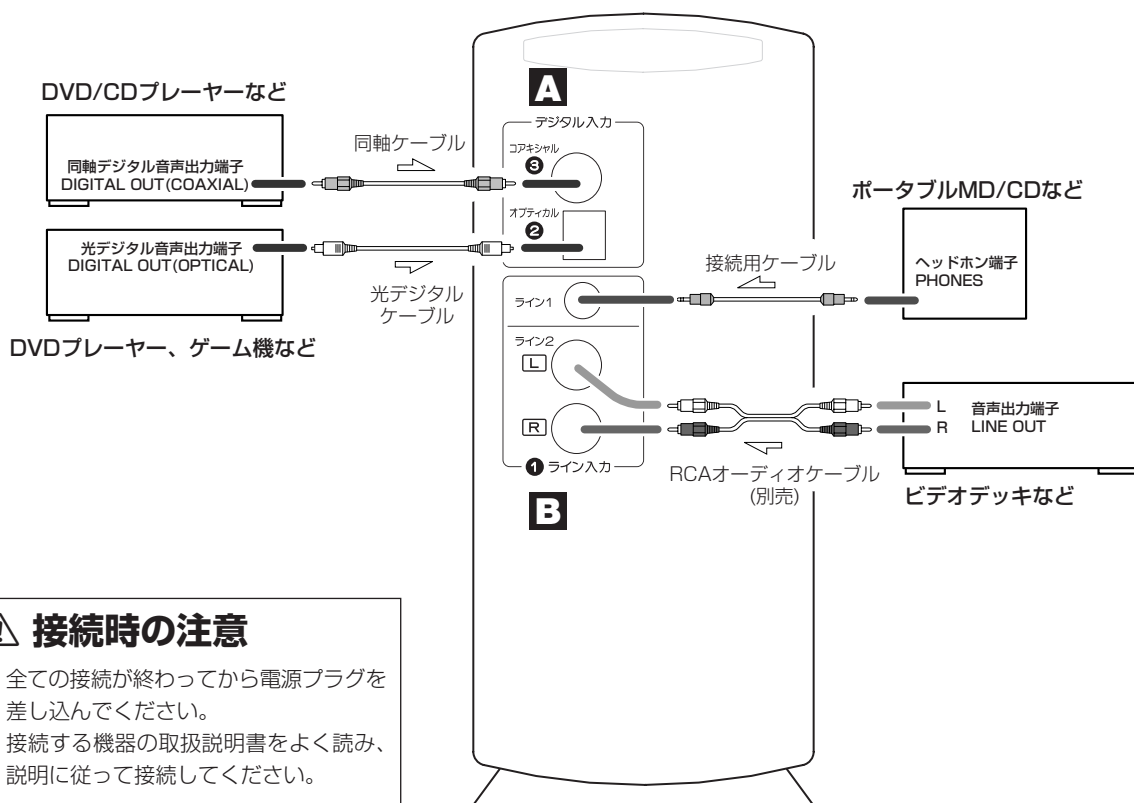
操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。

電池についての注意

⚠ **乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。**

● 乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
● 新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
● 乾電池は絶対に充電しないでください。
● 長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
● 液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

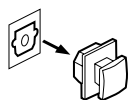
DVDプレーヤーなどとの接続

DVD/CDプレーヤーなど
同軸デジタル音声出力端子
DIGITAL OUT(COAXIAL)
同軸ケーブル
光デジタル音声出力端子
DIGITAL OUT(OPTICAL)
光デジタルケーブル
DVDプレーヤー、ゲーム機など
A
デジタル入力
コアキシャル ❸
オプティカル ❷
ライン1
ライン2
L
R
❶ ライン入力
B
ポータブルMD/CDなど
接続用ケーブル
ヘッドホン端子
PHONES
L
R
音声出力端子
LINE OUT
RCAオーディオケーブル
(別売)
ビデオデッキなど

⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

A デジタル入力端子

デジタル入力端子(オプティカルまたはコアキシャル)と接続した機器でドルビーデジタルまたはDTS対応のDVDを再生すると、5.1チャンネルのサラウンドをお楽しみいただけます。

付属の光デジタルケーブルまたは市販の同軸ケーブルを使って、DVDプレーヤーなどのデジタル出力端子(DIGITAL OUT)と接続してください。

オプティカル端子を使用するときは、キャップを外してください。使用しないときは、キャップを付けておいてください。

- 接続する機器の端子の形状によっては、端子の先端に付属の光ミニプラグ用アダプターをはめてお使いください。

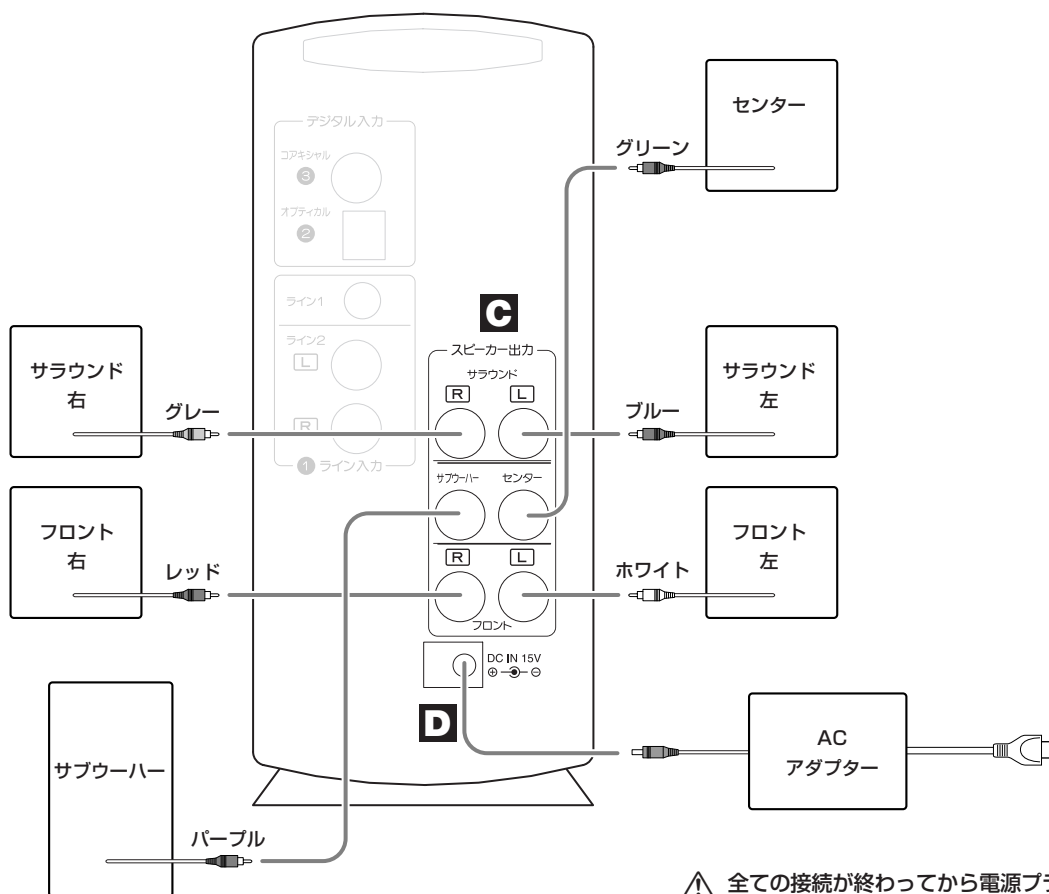
B ライン入力端子

ビデオデッキなど、デジタル出力端子のない機器と接続するときに使います。

- 白のピンプラグを白(L：左)端子に、赤のピンプラグを赤(R：右)端子に接続してください。
- ラジカセやポータブルCDなど、音声出力端子のない機器と接続するときは、付属の接続用ケーブルを使って、ヘッドホン端子と接続してください。
- ビデオデッキなどと接続するときは、市販のRCAオーディオケーブルでライン出力端子(LINE OUT)と接続してください。

⚠注意

CDプレーヤー、MDデッキなどのデジタル機器のライン出力端子(LINE OUT)を本機のライン入力端子に接続すると、音が歪んだり、途切れたりすることがあります。デジタル機器と接続する場合は、デジタル入力端子にデジタル接続するか、音量調節機能のあるヘッドホン端子と本機のライン入力端子を付属のケーブルで接続してください。

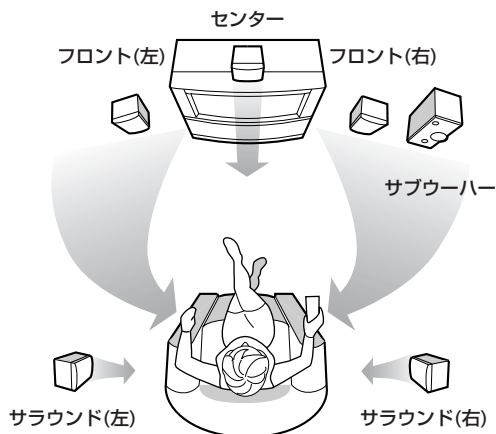
スピーカーとの接続

⚠ 全ての接続が終わってから電源プラグを電源コンセントに差し込んでください。また、交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因になります。

電源の抜き差しは、必ずプラグを持って行ってください。

C スピーカー出力

スピーカー出力端子とスピーカーのプラグの色を合わせて接続してください。

スピーカーの配置例

センター
フロント(左)
フロント(右)
サブウーハー
サラウンド(左)
サラウンド(右)

フロントスピーカー

- L端子につないだスピーカーを左に、R端子につないだスピーカーを右に設置してください。
- できるだけ視聴するときの耳の高さに設置してください。

センタースピーカー

- フロントスピーカーの間(テレビの上か下)に設置してください。
- できるだけ視聴するときの耳の高さに設置してください。

サラウンドスピーカー

- L端子につないだスピーカーを左に、R端子につないだスピーカーを右に設置してください。
- 視聴する場所の左右で、高さ1.5m〜2mの位置に設置してください。
- ケーブルの長さが足りないときは、付属の延長ケーブルをお使いください。その場合、左右のケーブルは同じ長さにしてください。

サブウーハー

- サブウーハーは、定位のわかりにくい重低音を再生します。図のような位置の他、部屋のコーナーや視聴位置の近くなど、好みの位置をさがしてください。

D ACアダプター

付属のACアダプターを本体に接続してから、電源プラグを電源コンセントに差し込んでください。

- 電源プラグを電源コンセントに差し込んだ状態でACアダプターと本体を接続しないでください。故障の原因となることがあります。

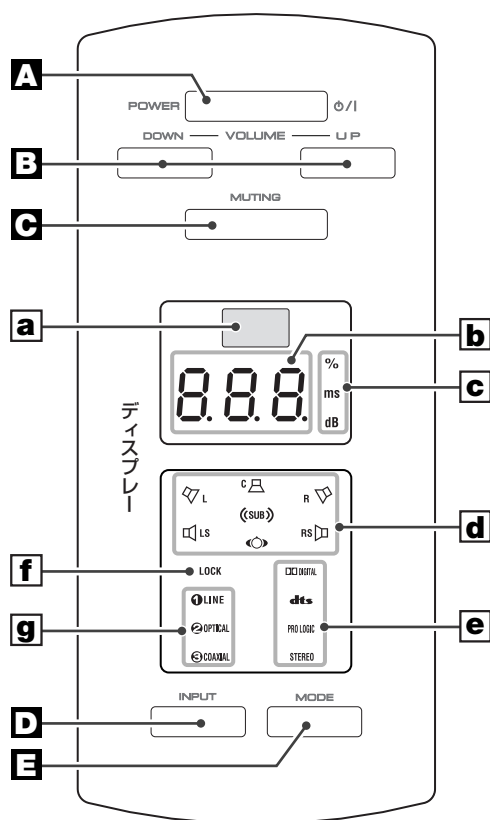
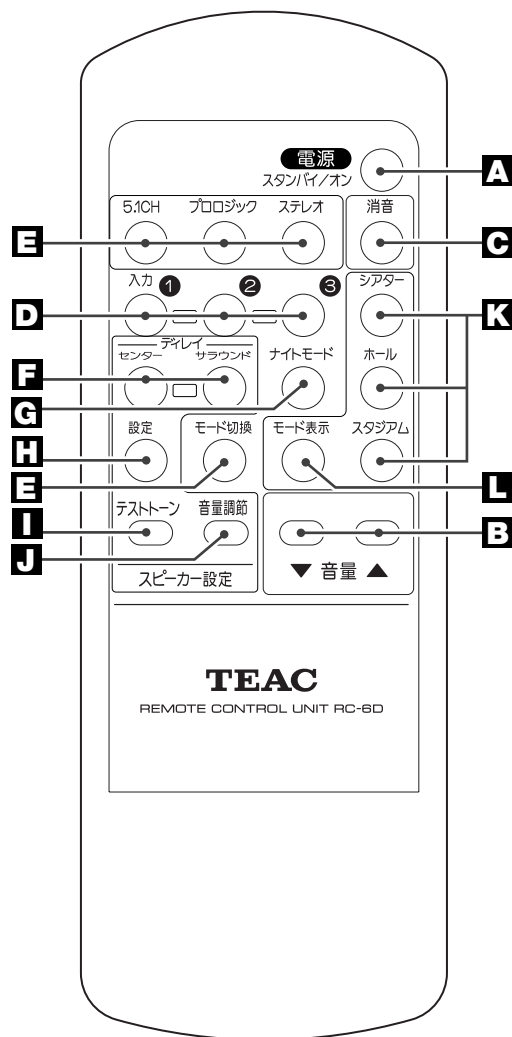
- 電源プラグの抜き差しや停電などで電気の供給が途絶えると、各種設定は消去されて工場出荷時の状態に戻ります。

⚠ 付属のACアダプター以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。入れたまま長期間放置すると、火災や感電の原因になることがあります。

注意

- 付属のスピーカーをお使いください。やむを得ず付属以外のスピーカーを使う場合は、インピーダンスが4Ωのものをお使いください。
- 音量を上げすぎないでください。
- スピーカーの振動板には手をふれないでください。
- 付属のスピーカーは磁力の影響が出にくい設計になっていますが、テレビに近づけて設置した場合、色むらが出ることがあります。そのような場合にはスピーカーをテレビから離し、色むらの出ない距離でご使用ください。
- スピーカーの前に障害物を置くと、サラウンドの効果が損なわれることがあります。

各部の名称

本体

リモコン

A 電源ボタン(スタンバイ/オン)

電源のオンとスタンバイを切り換えます。スタンバイ状態のときはオレンジ色のランプが点灯します。

B 音量ボタン(▼/▲)

全体の音量を調節します。

C 消音ボタン

一時的に音を小さくしたいときに押してください。消音(ミュート)中はオレンジ色のランプが点滅します。もう一度押すと元の音量に戻ります。

D 入力ボタン

本体のINPUTボタンを押すたびにソースが切り換わります。再生したい機器が接続されている端子を選んでください。
リモコンの場合は、入力❶、❷または❸ボタンを押して選んでください。

E モード切換ボタン

このボタンを押すたびに、サラウンドのモードが切り換わります。リモコンの5.1CH、プロロジック、ステレオボタンで直接選ぶこともできます。再生するソースに合わせてお選びください。

F ディレイボタン

センタースピーカーとサラウンドスピーカーのディレイタイムを調節します。

G ナイトモードボタン

デジタル入力端子(オプティカルまたはコアキシャル)に接続した機器でドルビーデジタル対応のディスクを再生するときにこのボタンを押すと、ダイナミックレンジ(大小の音量差)を小さくして音を抑えることができます。

H 設定ボタン

低音の出力方法を設定します。

I テストトーンボタン

テストトーンのオン/オフを切り換えます。

J 音量調節ボタン

テストトーンを使わずに各スピーカーの音量を調節するときに使います。

K シアター、ホール、スタジアムボタン

サラウンドのモードを切り換えます。
ドルビーデジタルまたはDTS対応のソフトの再生中は選べません。

L モード表示ボタン

選択されているサラウンドのモードがディスプレーに表示されます。
H-1 : シアター
H-2 : ホール
H-3 : スタジアム

a リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。

b メッセージ表示部

音量などが表示されます。

c 単位記号

メッセージ表示部に音量が表示されているときはdB、ディレイタイムの調整中はms、ナイトモードの調整中は%が点灯します。

d スピーカーアイコン

使用中のスピーカーが点灯します。

e ドルビーデジタル/dts/プロロジック/ステレオインジケーター

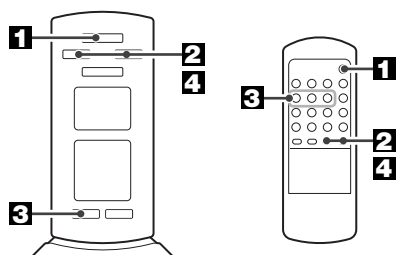
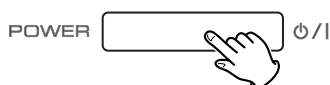
選択されているモードが点灯します。

f LOCKインジケーター

デジタル信号を感知すると点灯します。

g 入力インジケーター

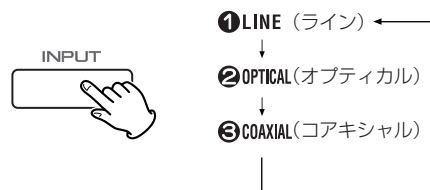
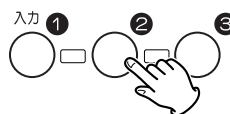
選択されている入力が点灯します。入力切換ボタンで切り換えます。

基本操作

1 電源を入れる。

2 音量を下げる。

工場出荷時は0dBに設定されています。かなり大きな音ですので、−20dB程度に下げてください。

⚠ 電源プラグの抜き差しや停電などで電気の供給が途絶えると、工場出荷時の音量(0dB)になりますのでご注意ください。

3 入力を選ぶ。

本体のINPUTボタンを押す度に入力が切り換わります。再生したい機器が接続されている端子を選んでください。

● リモコンの場合は、入力❶、❷または❸ボタンを押して選んでください。

● 電源プラグの抜き差しや停電などで電気の供給が途絶えると、工場出荷時の設定(❸COAXIAL(コアキシャル))になります。

4 ソースを再生して、音量を調節する。

−69dB〜+10dBの範囲で調節できます。ただし、テストトーンや音量調節ボタンで各スピーカーの音量バランスが設定されているときは、+10dBまで音量を上げることはできません。(たとえば、サブウーハーが+3dBに設定されているときは、音量の上限は+7dBになります。)

⚠ 突然大きな音が出ると、スピーカーを破損したり聴覚障害などの原因になることがあります。音量は小さくしておいて、ソースを再生してから適切な音量に調節するようにしてください。

A ディスプレーの表示について

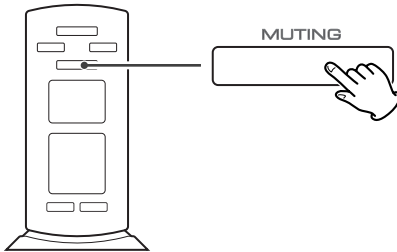
デジタル信号を感知すると"LOCK"が点灯し、信号の種類を数字で約一秒間表示します。

● デジタル信号の識別中に、ディスプレーが点滅することがあります。

表示の例

321 : 5.1CH
200 : 2CH (ステレオ)

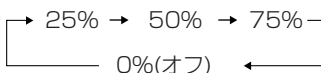
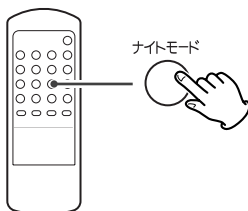
B 一時的に音を小さくするには(ミュート)

一時的に音を小さくしたいときは、MUTINGボタン(またはリモコンの消音ボタン)を押してください。

ミュート中はMUTEインジケーターが点滅します。
もう一度押すと元の音量に戻ります。

C ナイトモード

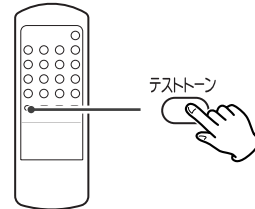
デジタル入力に接続した機器でドルビーデジタル対応のディスクを再生するときに、ダイナミックレンジ(大小の音量差)を小さくして音を抑えることができます。会話などの音声が聞きづらい場合や、夜間など音を控えめにしたいときに便利です。

リモコンのナイトモードボタンを押すたびに数値が切り換わります。

→ 25% → 50% → 75% → 0%(オフ) →

テストトーン

テストトーンを使うと、各スピーカーの音量バランスを調節することができます。一度調節すれば、スピーカーを移動しない限り、再度調節する必要はありません。

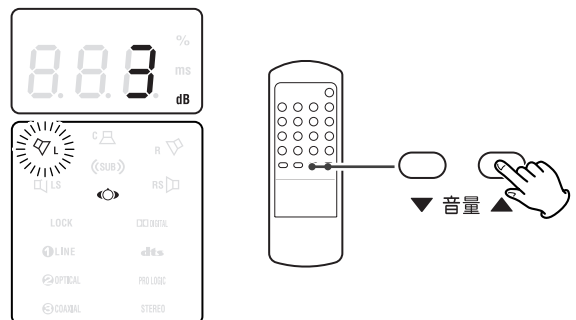
● リモコンを使って、実際の視聴位置で調節してください。

1 テストトーンボタンを約2秒押す。

フロント左(L)、センター(C)、フロント右(R)、サラウンド右(RS)、サラウンド左(LS)、サブウーハー(SUB)の順に、テストトーンが約2秒ずつ出力されます。

● センタースピーカーなどがオフに設定されている場合(15ページ)は、そのスピーカーはスキップします。
● テストトーンを中断したい場合は、テストトーンボタンを押してください。

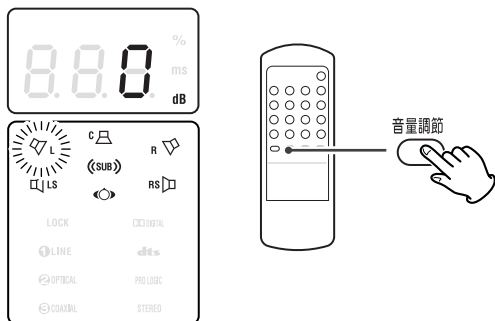
2 各スピーカーからの音の大きさが同じに聴こえるように調節する。

調節したいスピーカーから音が出ているときに、音量ボタン(▼/▲)を押して音量を調節してください。

● ±10dBの範囲で調節できます。ただし、全体の音量が0dBを越えているときは、調節範囲が狭くなります。

● 全部のスピーカーの調節が終わるまで、1と2の操作をくり返してください。

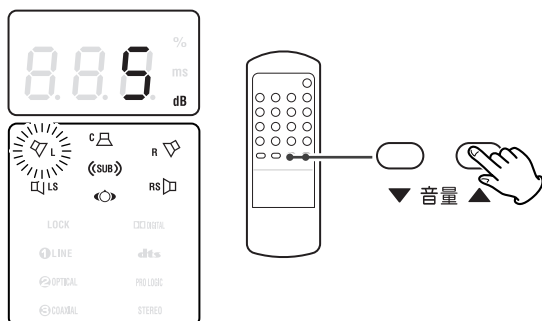
各スピーカーの音量の調節

DVDなどの再生中に各スピーカーの音量を調節する機能です。**テストトーン(13ページ)を使って調節してある場合は、調節する必要はありません。**

1 DVDなどの再生中に音量調節ボタンを押す。

音量調節モードになり、フロント左(L)のスピーカーアイコンが点滅します。
他のスピーカーを選ぶ場合は、音量調節ボタンを続けて押してください。

- 2秒以上放置すると、音量調節モードは解除されます。

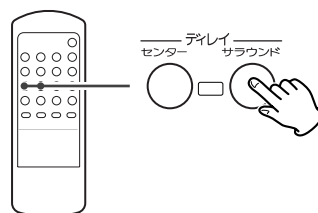
2 2秒以内に音量ボタンを押して、音量を調節する。

音量ボタン(▼/▲)を押して音量を調節してください。

- 全部のスピーカーの調節が終わるまで、1と2の操作をくり返してください。
- ±10dBの範囲で調節できます。ただし、全体の音量が0dBを越えているときは、調節範囲が狭くなります。

ディレイタイム

部屋の広さ、形、スピーカーの配置、聴く人の位置に応じて最適なサラウンド効果を得るために、センタースピーカーとサラウンドスピーカーのディレイタイムを調節することができます。

ディレイタイムを長く設定すると大きめの音場空間に、短く設定すると小さめの音場空間になります。
センタースピーカーはリモコンのセンターボタンで、サラウンドスピーカーはサラウンドボタンで調節してください。
ボタンを押すたびに数値が変わります。

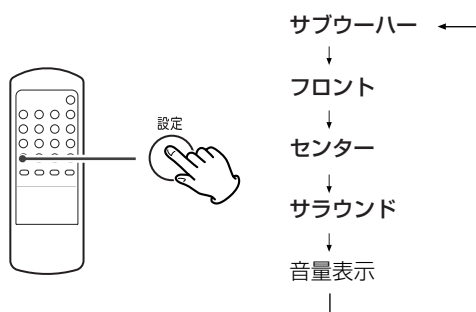
- センタースピーカーのディレイタイムは、ドルビーデジタルモードのときだけ調節できます。
- サラウンドスピーカーのディレイタイムは、ドルビーデジタルまたはドルビープロロジックモードのときだけ調節できます。

ディレイタイムの設定範囲

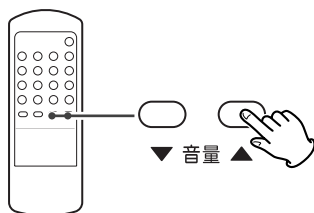
センタースピーカー：
0～5ms(1ms刻み)
サラウンドスピーカー：
0～15ms(5ms刻み)

- ドルビープロロジックモードを選ぶと、画面上の数値は変わりませんが、サラウンドスピーカーのディレイタイムに15msが自動的に加算されます。

スピーカー設定

本システムに付属のスピーカーを全てお使いになる場合は、設定を変える必要はありません。
サブウーハーやサラウンドスピーカーを使わない場合や、他のスピーカーと組み合わせて使う場合は、設定を変更してください。

1 設定ボタンをくり返し押して、設定するスピーカーを選ぶ。

- サラウンドモードがステレオのときは、サブウーハーとフロントスピーカーしか表示されません。全部のスピーカーを表示させるためには、入力 ❶ ボタンとプロロジックボタンを押してください。

2 音量ボタン(▼または▲)を押して設定を選ぶ。

- 全てのスピーカーの設定が終わるまで、1と2の操作をくり返してください。設定が終わったら、通常の表示(音量表示)になるまで設定ボタンをくり返し押してください。

- 電源プラグの抜き差しや停電などで電気の供給が途絶えると、設定した内容が消去されて工場出荷時の設定に戻りますのでご注意ください。

サブウーハーの設定

On(オン)：
サブウーハーを使用するときはオンにしてください。

OFF(オフ)：
サブウーハーを使用しないときはオフにしてください。

フロントスピーカーの設定

L(ラージ)：
大型のフロントスピーカーを使用する場合のモードです。

S(スモール)：
小型のフロントスピーカーを使用する場合のモードです。

サブウーハーがオフの場合は、フロントスピーカーは自動的にLに設定されます。

センタースピーカーの設定

L(ラージ)：
大型のセンタースピーカーを使用する場合のモードです。

OFF(オフ)：
センタースピーカーを使用しない場合はオフにします。センタースピーカーの効果は左右のフロントスピーカーで代用します。

S(スモール)：
小型のセンタースピーカーを使用する場合のモードです。

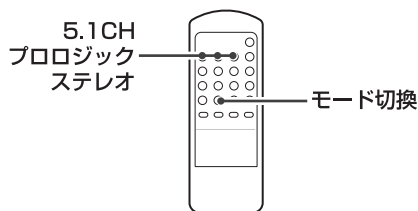
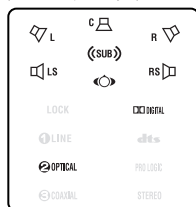
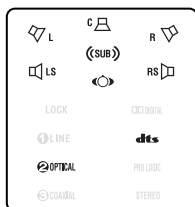
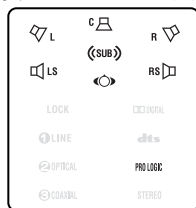
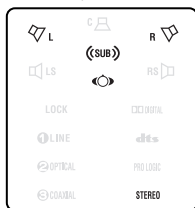
サラウンドスピーカーの設定

L(ラージ)：
大型のサラウンドスピーカーを使用する場合のモードです。

S(スモール)：
小型のサラウンドスピーカーを使用する場合のモードです。(フロントスピーカーがSに設定されているときは、サラウンドスピーカーも自動的にSに設定されます。Lを選択することはできません。)

本システムに付属のスピーカーを全てお使いになる場合は、サブウーハー：オン、フロント：S、センター：S、サラウンド：Sに設定してください。

サラウンドモードの切換

本体のMODEボタン(またはリモコンのモード切換ボタン)を押すたびに、サラウンドのモードが切り換わります。

ドルビーデジタル5.1ch

DTS

ドルビープロロジック

ステレオ

再生するソースに合ったサラウンドモードをお選びください。

- リモコンの5.1CH、プロロジック、ステレオボタンで選ぶこともできます。
- 入力切換が ❶LINE(ライン)のときは、ドルビープロロジックまたはステレオしか選べません。
- 5.1CHボタンを押すとドルビーデジタルまたはDTSモードになります。(入力されているデジタル信号によって異なります。)
- DTS、ドルビーデジタル、ドルビープロロジックサラウンドモードで最適なサラウンド効果を得るためには、6本のスピーカー(フロント×2、センター×1，サラウンド×2、サブウーハー×1)が必要です。

ドルビーデジタル (DDDIGITAL)

ドルビーデジタルは、最大5.1チャンネルの独立した音声を出力できます。このシステムは、映画館にサラウンドシステムとして装備されているドルビーデジタルと同一のシステムです。
ドルビーデジタル5.1ch対応のソフトを再生すると、独立した5.1チャンネルのサラウンドをお楽しみいただけます。

選択されているデジタル入力端子(オプティカルまたはコアキシャル)からドルビーデジタルの信号が入力されると、本機は自動的にドルビーデジタルモードに切り換わり、"LOCK"と"DDDIGITAL"が点灯します。

- 5.1chの場合、ディスプレーは"321"を表示したあと、音量を表示します。
- ドルビーデジタルに対応していないソフトの再生中は、ドルビーデジタルモードを選ぶことはできません。

DTS

DTSはデジタル・シアター・システム社が開発した劇場用のサラウンド方式で、独立した5.1チャンネルまでの音声を出力できます。圧縮率が低いため、ダイナミックレンジの広いサラウンド効果が得られます。

選択されているデジタル入力端子(オプティカルまたはコアキシャル)からDTSのデジタル信号が入力されると、本機は自動的にDTSモードに切り換わり、"LOCK"と"DTS"が点灯します。

- ディスプレーは"321"を表示したあと、音量を表示します。
- DTSに対応していないソフトの再生中は、DTSモードを選ぶことはできません。

ドルビープロロジック (PRO LOGIC)

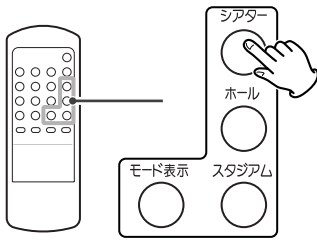
ドルビープロロジックサラウンドは、ドルビー研究所で規格化されたホームシアター用のサラウンドシステムで、映画館にいるような立体的なサラウンド効果を再現します。

ドルビーサラウンド対応のビデオやDVD、レーザーディスク、衛星放送などを聴くときにお選びください。

ステレオ

- ステレオボタンを押すと、通常のステレオモードになります。サラウンドおよびセンタースピーカーからの音は出ません。
- ドルビーデジタル5.1ch対応のソフトの再生中にステレオボタンを押すと、全ての音声がL/Rの2チャンネルから出力されます。
- サブウーハーがオンに設定されているときは、サブウーハーからも出力します(15ページ)。

サラウンド

リモコンのシアター、ホールまたはスタジアムボタンを押すと、2チャンネルの音声を疑似的にサラウンドにして聴くことができます。

シアター
映画館の立体的なサラウンド効果を楽しめます。
ホール
ライブコンサートの雰囲気を再現します。
スタジアム
野外スタジアムの音場を再現します。

- モード表示ボタンを押すと、選択されているサラウンドのモードがディスプレーに表示されます。

H-1 : シアター
H-2 : ホール
H-3 : スタジアム

仕　様

■本体(デコーダー/アンプ)

電源 . . . . 15V DC(専用ACアダプター使用)
外形寸法(W x H x D) . . . .
75mm(脚部103mm)×181mm×213mm
質量 1.0kg
サラウンド出力(10% THD, 1kHz, 4Ω)
フロント . . . . 5W+5W
センター 5W
サラウンド . . . . 5W+5W
サブウーハー出力(10% THD, 90Hz, 4Ω) 20W

■フロント/センター/サラウンドスピーカー

スピーカーユニット . . . . 直径76mm(防磁対応)
インピーダンス 4Ω
外形寸法(W x H x D) . . . .
89mm×90mm×79mm(サランネット含む)
ケーブルの長さ 2.9m
質量(ケーブル含む) 0.43kg

■サブウーハー

スピーカーユニット . . . . 直径76mm(防磁対応)×2
インピーダンス 4Ω
外形寸法(W x H x D) . . . . 96mm×206mm×216mm
ケーブルの長さ 1.8m
質量(ケーブル含む) 2.2kg

■付属品

リモコン
リモコン用乾電池(単4)×2本
ACアダプター×1個
光デジタルケーブル(角型・1.5m)×1本
光ミニプラグ変換端子×1個
接続用ケーブル(ステレオミニプラグ・1.8m)×1本
サラウンドスピーカー用延長ケーブル(3m)×2本
取扱説明書
保証書

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

おや？故障かな？

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方法も合わせてご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または最寄りの当社サービスセンターにご連絡ください。

電源が入らない。
➡ ACアダプターをデコーダーに接続し、電源プラグをコンセントに差し込んでください。

スピーカーから音が出ない。
➡ 音量ボタンで音量を調節してください。
➡ INPUTボタンを押して、再生したい機器が接続されている端子を選んでください。
➡ スピーカーとの接続をもう一度確認してください。
➡ 接続した機器の音声出力の設定を確認してください。
➡ 接続した機器で使用しているディスクを交換してみてください。
➡ ミュートインジケーターが点滅している場合は、リモコンの消音ボタンを押してミュートを解除してください。

再生中、音がとまる。電源を入れた後も音が出ない。
➡ 一度電源を入れなおしてから、音量レベルを低くしてください。

再生できない。
➡ 一部のコピー防止機能付きCDは、再生できないことがあります。

左右の音が逆になる。
➡ 赤いプラグのスピーカーを右に、白いプラグのスピーカーを左に置いてください。

サラウンドスピーカー/センタースピーカーから音が出ない。
➡ スピーカーとの接続をもう一度確認してください。
➡ 再生するソフトに合ったサラウンドモードを選んでください(16ページ)。
➡ センタースピーカーの設定(13ページ)をLまたはSにしてください。

ドルビーデジタルまたはDTSモードを選べない。
➡ INPUTボタンを押して❷OPTICAL(オプティカル)または❸COAXIAL(コアキシャル)を選び、その端子に接続されている機器の音声出力の設定を確認してください。
➡ ドルビーデジタルまたはDTSで記録されたディスクを再生してください。

サブウーハーから音が出ない。低音が出ない。
➡ サブウーハーとの接続を確認してください。
➡ スピーカー設定(13ページ)でサブウーハーをオンにしてください。
➡ 低音が入っているソースを再生してください。

雑音がする。
➡ 接続した機器やディスクによっては、ノイズを発生することがあります。

曲の頭が欠ける。
➡ 本機はデジタル信号の種類を識別してから音を出します。信号の識別中は音が出ないため、ディスクによっては、まれに曲の頭が一瞬欠けることがあります。

リモコンで操作できない。
➡ 電池が消耗していたら、2本とも新しい電池に交換してください。
➡ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から5メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。

テレビなどが誤動作する。
➡ ワイヤレスリモコン機能を持つ機器の中には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源を切り、約1分後に始めから操作してください。

お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、キャビネットを傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ **お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

保証とアフターサービス（よくお読みください）

■保証書

この製品には保証書が添付されています。保証書は、お買い上げの際に販売店が「お買上げ日・販売店名」等を記入した上でお渡し致します。記入事項及び記載内容ををご確認の上、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から一年です。

■補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
この期間は通商産業省の指導によるものです。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りの当社サービスセンター(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

18ページの「おや？故障かな？」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、当社修理センターまたは最寄りのサービスセンターにご連絡ください。
なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。
測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費等が含まれています。
部品代：修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：プライベートシネマシステム　PL-S6D
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

ティアック株式会社

コンシューマプロダクツ国内ビジネスユニット
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-10-7 星が岡会館

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

お客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30〜12:00/13:00〜17:00です。

お客様相談室

0570-000-701

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒358-8510 埼玉県入間市小谷田857
電話：042-962-8364 / FAX：042-962-8379

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、
通常の電話番号にお掛けください。

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまたは大阪サービスセンターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:00〜17:40です。

修理センター

0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒358-8510 埼玉県入間市小谷田857
電話：042-962-8226 / FAX：042-962-8379

大阪サービスセンター（担当地域：大阪、奈良、和歌山、岡山、鳥取）

電話：06-6384-5365（ナビダイヤルではありません）
〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-34-10

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、
通常の電話番号にお掛けください。

■住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

http://www.teac.co.jp/
PRINTED IN CHINA 0102·MA-0637A